

(様式第4号)

第1回上田市スポーツ推進審議会 会議概要

1	審議会名	第1回上田市スポーツ推進審議会
2	日時	平成28年12月13日 午後7時から午後8時45分まで
3	会場	教育委員会 第1会議室
4	出席者	小林会長、野口副会長、大槻委員、関委員、廣川委員、宮本委員、山崎委員 依田委員、渡辺委員
5	市側出席者	教育長、教育次長、スポーツ推進課長、丸子地域教育事務所長 真田地域教育事務所長(代理)、武石地域教育事務所長、スポーツ施設係長 スポーツ推進係長、
6	公開・非公開等の別	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7	傍聴者	0人 記者 2人
8	会議概要作成年月日	平成28年12月19日

協議事項等

- 開会(スポーツ推進課長)
 - 人事通知書交付
 - 教育長あいさつ
 - 委員・事務局自己紹介
 - 会長及び副会長の選任(会長:小林委員、副会長:野口委員)
 - 議事
 - 上田市スポーツ推進審議会について
 - 上田市スポーツ振興計画の進捗状況について
- 事務局 議事(1)・(2)説明
- 委員 スポーツ振興計画にある中学校の部活動への支援を引続きお願いしたい。生徒・学級数の減少により配属教員が減少し、部活動への対応が困難になってきている。個人的には柔剣道・バレーボール・野球が厳しくなっていると感じる。これらの競技は合同チームなどで対応している。真田はうまくさなだスポーツクラブと連携できて支援していただいているが、今後も支援をお願いしたい。
- 委員 県教委のスポーツ振興の目的は、子どもや成人の体力低下、特に働き盛りの方のスポーツ実施率の低下、その問題に力を入れている。週一回スポーツをしたかという調査で、目標は65%だが昨年は43%、一昨年は47%、その前は51%と年々下回ってきている。
- ここまでしっかりしたスポーツ振興計画がある市町村はあまりなくこのまま進めていただきたい。上田市だけでなく上小全域に浸透していくと良い。
- 11月に東信教育事務所でスポーツ指導者連携会議を行った。部活動、中学生期のスポーツ環境を整える取り組みを実施しており、今年は松本市の取り組みを発表した。スポーツ指針を整えて市全体で同じやり方を試みたということと、総合型との連携についての内容。過去、中学生期の運動は部活に任されていたが、学校だけでは対応できなくなってきた。市町村として子ども達のスポーツ環境をどう整えていくか話し合いをすべきだという意見が出た。今後は市町村また学校区へ持ち帰って話をしていただくようにしたい。
- 振興計画の中学校部活動等への指導者の派遣について、今何校くらい何人くらいなのか。上田市だけでなく、他市町村に対しても上田市の状況を一つの目標としてお話できればと思う。
- 委員 武石地域では子どもの数の減少が一番の問題と考えている。依田窪南部中と和田中の合併により部活動に光が見えてきた面もある。小学生になってスポーツをやらなくなるといったことがあり、幼児期からスポーツになじんでもらうということを進めていかなければと思う。保育園でも遊びながらスポーツができる環境ができれば良い。
- いろいろな面で人材育成を武石地域でもしなければという課題もある。
- 「宝くじスポーツフェア はつらつママさんバレーボール in 上田」に関わり、アスリートを見ることでスポーツをする人を見る目が変わっていいと感じた。

委員 総合型 SC から振興計画の内容についていくつか質問をお願いしたい。
市のスポーツ教室の人気教室は何か？参加者数は？
チャレンジキッズについて、総合型 SC も連携して関わってきたが、H28 年度の事業が終わったときに成果をこの場でお話いただきたい。
レクサポについて、登録クラブ員数は？どのような活動をしているのか？総合型 SC から派遣要請できるのか？

事務局 スポーツ教室の応募状況は後日とりまとめて提示したい。
チャレンジキッズの取組みについては成果の捉え方から検討しなければならない。
レクリエーションサポートクラブについて。現在約 30 名登録があり実質 20 名ほどが活動。多い要請内容は高齢者向け健康教室の講師など。総合型への派遣について今の体制でニーズに応えられるかは今後の課題。

委員 体育大学教授在職時の 2010～14 年、地元自治体と大学、商工会議所・旅館などとスポーツ合宿の誘致推進に携わりノウハウが得られた。現在スポーツツーリズムの推進を様々な自治体で聞くが現状は厳しい。本腰を入れて組織を作り予算も取ってやっついていかないとまうまい。上田は東京から近いという地の利や施設もあり、観光もできる。しかしここでスポーツ合宿をやる強みをしっかり分析して、アプローチしていかないと難しい。各分野から人を集めて組織的に進める必要がある。進んだところではスポーツコミッションを作っている。ワールドカップや東京オリンピックだけでなく、今、プロスポーツ・アマチュアスポーツ含めて地域活性化、経済効果をもたらすものとしてぜひ取り組んでいければと思う。

会長 ラグビーワールドカップキャンプ地誘致については、松本委員が関わっているが欠席で残念。市が全力を挙げて菅平への誘致を行っているという現状をお聞きしたかった。またスポーツ推進課でも機会を見て施設案内をお願いしたい。

委員 スポーツ推進委員として市のスポーツ行事をサポートしており、先日、丸子の事業としてスケート教室でエムウェーブに小学生を連れていったが、参加者が例年の 100 名から 70 名に減ってしまった。スケートをやりたくないのではなく子どもの数が減っているため。参加する子どもは一生懸命やっている。1 年生のときに始めて靴をはいた子どもも 4 年生になって上手に滑っている。
スポーツ行事に参加している子は普段からスポーツに親しんでいる子が多い。ランニングやスイミングなど、丸子から上田までスイミングスクールに通っていたりして、親の負担も大きい。親がやらせたいという気持ちでやっている。子どものスポーツ好きは親子の共同作業といえるのではないかと。もっとそういう子を応援していきたい。中学生になってもスポーツをしていく子が減らないようになれば良い。先のスケート事業にしても、小学生くらいまでで終わってしまうのは、丸子にスケート場がなく市民の森やエムウェーブまで連れて行かなければならないため。これがアスリートの増えない原因。
丸子のソフトボールチームについて、最低 9 人必要だが人数が減って上田・佐久・東御や軽井沢、戸倉など近隣地域から来てもらっている。チームのスポーツを増やしていきたいが場所も人数も無くという環境ではスポーツを広げることは難しい。

委員 高校でも年を追って入学者が減っている中、スポーツ離れも感じている。サッカーの新人戦を行ってもメンバーが登録可能な 23 人に満たないチームが多いという状況。少子化という背景もあるが、もっとスポーツに興味を持ってもらうようにするのが我々の仕事だと思う。
現在、指導はボランティアに頼っているのが根本的な状況。勤務している高校で少年サッカーチームに週 3 回グラウンドを貸しているが、監督やコーチは仕事を終えた後や土日に子ども達の面倒を見ている。仕事は大丈夫かと心配になるほどの状態。ボランティアの熱意に支えられている現状には限界が来ている。学校体育から社会体育への移行が必要になってきており、その連携がうまくいって初めて子どもたちにスポーツの楽しさを教えていくというシステムができる。
レスリングについて、上田市では中学校に競技者がいないということで「ちびっこレスリング」を開催している。出身の生徒が市内の高校から国体に出場した。継続した指導の中で選手が育っていく。しかしその指導者も手当が無くボランティア。

委員

子どもたちをスポーツ好きにさせるのが我々の仕事であり、スポーツに触れ合うプロジェクトということで、「夢の教室」のような取り組みは、小学生のうちからトップアスリートと接することで感動し、スポーツだけでなく勉強などを頑張ろうと思える子どもを増やしていけると思う。良い事業なので数多く継続していただきたい。

上田市は、真田丸などで今勢いのある市。スポーツも8年前に私が携わり始めたときから考えて、それぞれの事業について小さいことですぐには結果の出ることではないのだが、様々なことが動き出している。このままではダメだと動き出した大人が子どもたちを巻き込んでいったことが結果に現れてきており、新聞のスポーツ記事でも上田市の名前を多く目にする機会が増えた。始めは体育館の中で結果を出さなければと思っていたが、それよりも学生を外に出した方がみなさんに喜んでもらえることが分かった。

ボランティア活動について、上田は大学が複数あり、大学の立場からいろいろなことができると感じる。つなぐのが私達の仕事だと思い関わってきた。

子どもたちが本物に触れられるイベントを招致することも成功している。ラグビーのワールドカップにしても東京オリンピックにしても、ぜひ体験させてあげたいと思う。

上田市にもパラリンピックなど世界を目指す学生がいるわけで、市のスポーツ振興計画には障がい者のスポーツへの視点をもっとあっても良いと思う。

バレーボールの強化委員会という組織の中で、初めて小学生から大学生までの競技団体が集まる会議があり、画期的な試みであった。今までも小中高大と競技を続けている子どもが少ないということは分かっていたが、現状を把握できた。今までは自分たちの組織をどうするかということが主だったが、少なくなっている競技人口をどうしていくかという議論が始まった。良い動きだと感じている。

会長

先に委員から話のあった東信教育事務所の会議に年2回出席した。一回目は総合型SCとの連携、2回目は中学生の部活動についての素晴らしい会議であった。中学校の先生、総合型SC、スポーツ指導員、体育協会、いろいろな人たちが集まって、今回のように現状の悩みを出し合い、上田独自に進めようと思った。先ほどから言われているように、小さいときから、いかにスポーツを楽しみ、スポーツ嫌いをなくしていくか。スポーツ推進課だけではできないため、まずは保育課や健康推進課、そして障がい者スポーツに関しては福祉課と連携していけば良い取り組みになる。私の方からも課長と話して実現したい。

一番の悩みは子どもの減少ということ。小中高、体育協会、教委などの連携をとった会議を実施できれば良いと考える。

委員

東信教育事務所の立場で我々も協力したい。

委員

上田では菅平に施設が多いためスポーツの合宿誘致を進めている。以前、上田でもコンベンション協会とサッカーチームをたくさん呼ぼうと話し合い、旅館組合に入ってもらって高校の先生たちが手作りでプログラムを用意した。40チームほど集めた年度もあった。

現在は旅行会社でもスポーツ施設・宿泊地・審判まで用意したプランを用意している。石川県の和倉では海沿いに人工芝3面、天然芝の1面を並べたコートがあり、夏休みになると100チームからが期間を区切ってレベル別に集まってくる。そこでリーグ戦を行っていて、九州や関東の強豪校なども来る。建物は高級旅館だが子どもたち向けには宿泊料7000円、食事はバイキングと、地域が協力して行っている。

上田市でも、ノウハウのある本審議会委員から意見や講演をいただいて、世代を超え一堂に会して話し合う機会が年一回でもあれば建設的な意見も出てくるのではないかと。たとえば市内の高体連の先生方や中体連の先生方、小学生スポーツの指導をされているボランティアの方たちに声をかけるのも良いと思う。私達のこの集まりは小さいものだが、もっと大きく広めていく機会が年に1回くらいあるといいと思う。

(3)上田市体育施設使用料等の統一について

事務局

議事(3)説明

会長

特にここで聞いておきたいという意見はありますか。(なし)

(4)上田市のスポーツ施設について

事務局

議事(4)説明

委員

具体的にこの施設から整備したいという構想はあるのか。

事務局

施設長寿命化の観点で専門家に検証してもらい、どのような計画が可能か今後検討していく。

会長

意見があれば配布しているアンケート用紙に記入して事務局に提出願いたい。

(5)その他

事務局

2月中・下旬に次回会議を予定しているため日程調整をお願いしたい。

施設の視察も希望があれば対応したい。ご希望の方はアンケートへ記入されたい。

7 閉会(小林会長)